

～ 学校教育目標 ～ 「豊かな心 確かな力で 未来を拓く子どもの育成」を目指して

保育所・幼稚園・小学校連携 への取組

今年度、楠目小学校では「子どもの育ちの連続性を保障する保育・教育の推進」の一環として、保・幼・小連携への取組の見直しをしていますので、今回は、その取組をご紹介します。

取組 ① スタートカリキュラムの見直し（学習環境）

スタートカリキュラムとは、新入生が学校生活への適応がなめらかに図れるよう、時間や教科を工夫し、合科的（複数教科を組み合わせるもの）・関連的な指導を行い、就学前教育で身につけた力を生かした指導を行うことで、子どもたちの育ちと学びをつなげるものです。これにより、保育所や幼稚園とのギャップによる不安感をなくし、児童が主体的な学習者になることを目指しています。

- 楠目小学校のスタートカリキュラムの視点での課題（昨年度の反省から）
 - ・小学校での学習環境が児童に合っていない。
 - ・教師主導型で、児童にとって不自然な学びとなっている。
 - ・児童の強みが活かされていない。

⇒ 学習環境整備への取組



朝の読書タイムまでの「ゆっくりタイム」では、友達と遊びを選択し、一緒に遊ぶ姿が見られました。



グループ机にすることで、友達のたたみ方を見て、自分の服のたたみ方を見直す姿が見られました。

取組 ② 保育体験の見直し

保育体験（実践研修）では、就学前教育と小学校教育の学びの接続を理解することと、幼児教育の学びの見取り（見て理解すること）の手法を学び、小学校教育での児童の学びの見取りに活かすことで、目指したい児童の姿をイメージすることを目的として行いました。

- 楠目小学校の保育体験での課題
 - ・教師による児童の思いの見取りが不十分であり、次の課題の見通しや意欲付け、必要感をもたせることができていない。

⇒ 講師を招き、園児の思いの見取り方について、全教員で事前研修や実践研修、事後研修を実施

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現



▲幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

▲事後研修では具体的な場面をグループで共有し、学びを深めました。

【研修講師より】円滑な学びの接続をするために・・・

- ① 学校全体で、保育園から中学校まで15年間の学びについて考え、共有する。
- ② 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針などに示された理念を実践に活かす。
- ③ 子どもの姿を、家庭や異校種（幼稚園や中学校など）と共有する。

今回の研修では、小学校教育にとって、なぜ幼児教育の学びとの接続が大切なのかということについて、理論（習得）と実践（活用）を往還することで学びを深めました。今後もさらに交流と研修を深め、学校教育目標の実現に向けて取り組みます。

地域とのかかわりを通して豊かに学ぶ ～米作りの学習を通して～

舟入小学校では、本年度から新たに「自分でできる みんなとできる 舟入っ子」を教育目標として、教育実践を進めています。目指す児童の姿を「学ぶことを楽しむ子 チャレンジできる子 個性を認め合える子」として、生き生きと学ぶ環境づくりに力を入れて取り組んでいます。

なかでも重要視していることは、地域と連携した学習活動です。生活科と総合的な学習の時間を核にしたカリキュラムマネジメントを行い、「人・もの・こと」と関わって探究的に学べるようにしています。

今年度から、2年生と5年生が地域の濱田農園の方々と協力して米作りを行っていて、コロナ禍で止まっていた米作りを、何とか復活させようと地域の方々が動いてくださり、学校の西隣の田で実施できることになりました。苗床を作る体験もできて、苗を植えることができました。2つの学年で協力してできたこともよかったと思います。現在、稲はぐんぐん育っていて、8月末には地域の方や保護者と一緒に稲刈りを実施することになっています。観察し続けたものを食することができるのは、たいへん貴重な体験です。今後も地域の方に力を借りながら、米作りを行いたいと思います。

【田植えの様子】

子どもたちにとって初めての経験となりました。裸足で泥に足を入れる感覚を楽しみ、歓声を上げながら作業を進めていました。思ったより上手に苗を植えられて、子どもの底力を感じたことでした。尻もちをついて泥だらけになった子もいましたが、友達と力を合わせて頑張れたと思います。



【2年生の観察の様子】

2年生は、米の成長に目を向けるためにバケツ稲づくりも行っています。種もみを発芽させ、一粒一粒土に植え、それをまとめて苗の状態にし、バケツに植えて成長を見続けています。タブレットで写真を撮って観察記録を作っていますが、もうすぐ穂が出てきそうです。収穫を楽しみにしています。



わくわくがいっぱい、なかよし保育園！

なかよし保育園には、0歳児から5歳児まで156名の園児が通っています。毎日、元気いっぱいの楽しそうな声が、保育園全体に響いています。

子どもたちは、保育園で友達と遊んだり、さまざまな体験をする中で、季節の変化を感じ、好奇心や探求心などを培っています。その一環として、畑やプランターで、自分たちが興味のある野菜をたくさん育てています。水やりをしながら野菜の成長を観察したり、大きく実った野菜を収穫したり、子どもたちはとても生き生きとうれしそうです。そして、給食の先生がおいしく調理してくれて、それを食べることで身近な人との会話も楽しみ、自然の恵みや不思議さを感じることができています。また、栄養士さんから食べ物と身体についてのお話を聞くことで、楽しく学び、わくわく感を広げています。



▲野菜作りをしたよ。きゅうりやナスなどがたくさん取れて、給食でオ料理してもらって食べました。おいしかったね♪



▲畑に行くと、あっちにもこっちにも、大きいスイカを見つけました。冷やして食べてとてもおいしかったです！



▲食べ物と身体についてのお話を聞きました。「いろんな食べ物がみんなの体の力になっているんだな」とわかりました。